

6. パブリックコメント(意見公募)

地域福祉活動計画を策定するにあたり、平成22年6月から7月までの2か月間、地域福祉活動計画策定委員会で話し合われた内容をホームページ等での公開や各種会議で説明を行うなど、市民の皆様からのパブリックコメントを募集しました。
市民から寄せられたパブリックコメントは、策定委員会で検討され、修正・訂正・追加したものが策定計画素案となりました。

以下のとおりパブリックコメントを目標ごとにまとめました。

《1》支えあえる地域づくり

(1) 安心して暮らせる地域

①日常生活に不安のある人たちに対する、相談体制づくりを進める。

(大原) 一人暮らしで、万が一のことを思えば心穏やかではありません。行政への要望として、玄関先等に非常灯を設置し緊急時には外部に助けを求められるような設備を地域の見守り役として機能するよう制度化して欲しい。個人取り付けもやぶさかではないが、制度化されていなければ無意味です。これからは単身世帯も増えてくるのではないのでしょうか。

(2) 地域の助け合い支え合い

④年齢や障がいの有無等を越えた、地域の助け合い支え合いの意識を高める。

(勝田) 助け合い・支え合いと言うが、高齢者相手に言われても自分が助けて欲しいと思う。

(美作) 障がい者から高齢者まで様々な方たちに対する見守りをどのような体制の中で活かそうとしているのか？

(美作) 同区内でも成功例の報告などが聴きたい(講師として)
地域ごとに福祉に関する意識などの温度差がある。地域ごとの勉強会等で統一化を目指すべき。
旧町村に縛られない交流や意見交換・他の組織の見学等ができれば。

(美作) 広報誌で現在の地域ごとの行事などもいいのだが、先進的な活動をしている団体・地区を取り上げて他の参考になる活動の説明や紹介をした方がいいのでは。

⑤年齢や障がいの有無等を越えた、近隣の支え合いの仕組みを作る。

(勝田) 小地域での活動が重要だと思う。その為、福祉5人組制度については出来る地域からではなく、出来にくい地域から推進して欲しい。

(勝田) 勝田地域では過疎化が進み、限界集落が増加している為、特に地域での支え合いが重要だと思う。

(大原) 配食サービスの安否確認はよいことだと思う。一人暮らし世帯などに毎日誰かが訪問する仕組みが出来ていて良いと思う。

⑥障がい者や子供、声を発せない弱者の方々との交流の機会を増やす。

(作東) 障害者、子供、高齢者との交流の機会を増やすとあるが、昔は地区の運動会等が出来ていたが、今は人が少なくなって開催が難しい。子供も少なくなっているので、子供会の開催も難しい。年齢別なら難しいが、社協からも協力をいただいてレクリエーションなどを交えた地域全体の交流会なら可能だと思う。

(3)見守り活動の充実

⑦地域で声かけや安否確認等の見守り活動ができる仕組みを作る。

福祉委員の育成や役割についてのPRとあるが、そもそも福祉委員の役割は明確なものがあるのか。また、同じような役割として昔から愛育・栄養委員があるので、それと兼ねればいいのではないか。愛育・栄養委員との役割分担が明確でなければ現場で混乱するのではないか。

《2》人材育成

(1)人材・後継者の育成

②福祉委員活動が浸透するよう、研修会等を開催して福祉委員の役割や地域福祉の必要性を理解してもらえよう働きかける。

(勝田) 福祉委員の役割が浸透していないので、重点的に研修を行って欲しい。

福祉委員も定着してきた地区もあるが、役割を理解できていない地区がまだまだあり、順番で役(大原)が回ってくる。内容が理解出来た頃に任期がきて次の人に代わっていく。又その繰り返しでレベルアップするのは大変。役員になる人によってサロンなどの開催回数などが変わる。

(美作) 役員が任期で代わると一からやり直しになる。組織運営の在り方がきちっとできていないため、組織の方針等が形骸化している。

(3)ボランティア活動の活性化

⑥ボランティア活動の担い手の育成・声かけを推進する。

(美作) ボランティア意識が薄い。

⑦ボランティアニーズの発掘と活動を推進する。

(美作) 夏のボランティア体験が終わった後、活動を継続できることが必要である。

《4》子育て支援

(2)各種福祉サービスによる支援

⑦関係機関・団体活動の共通認識及び連絡会等にて連携を図る。

(東栗倉) 学校教育、社会教育、社協が推し進める子育て関連の事業やグループが、共通の目標に向け連携した活動ができていない。

(3)市民活動による支援

⑧子育て中の世代が、講演会等へ積極的に参加できるよう、託児ボランティアを養成する。

ボランティアニーズとあるが、作東でも託児ボラの育成が必要ではないか。ファミサポなどは急にその時だけ頼むことが出来ないなので、託児ボラがあると便利だと思う。募集するだけでもしてみたらどうか。

《5》障がい者・児の理解と支援

(2)障がい者・児の理解と就労場所及び外出先の提供

⑤障害の有無などを超えた理解を深める。

(勝田) 障害者支援の住民向け研修を行ったらどうか？

《6》当事者団体組織活動の強化

(2) 当事者団体の会員強化

⑥ 全ての会員が参加しやすい活動内容を検討する。

(勝田) 老人クラブなど、地区組織活動強化の一環として見守り活動を推進したらどうか？

《7》高齢者の外出支援

(1) 買い物のための支援

① 地域公共交通を利用した買い物の推進と商工会等の送迎に関する情報を提供する。

(勝田) 商工会への依頼は難しいとは思いますが、投げかけてみるのはいいことだと思う。

(4) 新しい仕組みづくり

⑦ 地域で取り組める新たな交通手段を研究する。

(勝田) 介護車両の貸出事業をやってみてはどうか？

《8》災害に対する意識づけ

(1) 災害時の救援・助け合い活動の仕組みづくり

① 災害時の対応方法や連絡先の確認等の研修会を開催する。

(勝田) 各地区サロンで研修会を行ってはどうか？ 避難場所の周知を徹底したほうがよい。

③ 災害時に迅速な支援を行うために、災害時要援護者の把握を行う。

(作東) 支援者マップの作成とあるが、地震などの際には、支援者の家だけでなく、どこに寝ているかも必要になると思う。特に若い人は地域の支援者の家も知らないと思う。

《9》住民の自主活動に繋がる情報の伝達

(2) 各種福祉サービス情報

⑦ 介護保険以外の高齢者福祉サービス情報誌を作成し、地域へ提供する。

(東粟倉) 福祉情報をまとめたハンドブックを作成してほしい。

(4) 報告と紹介

⑩ 寄付金・会費の使途や社会福祉協議会の事業情報を周知、明確化する。

(美作) 広報誌で現在の地域ごとの行事などいいのだが、先進的な活動をしている団体・地区を取り上げて他の参考になる活動の説明や紹介をした方がいいのでは。

《10》行政との連携と働きかけ

(1) 公共施設・民間施設の有効利用

③施設の情報提供や、障がいの理解を深めるための研修会・交流会を開催する。

(美作) 発達障害の子供の問題など、新たな問題がでてきている。
発達障害は親が隠したが。先生の数の問題にしても教育機関との連携が必要。

(3) 生活課題・社会資源等の改善

⑧高齢者・障がい者にも配慮した広報や申請書類を作成する。

(勝田) 広報紙をあまり読まない方が多いため、他の紹介方法等を考えるか、広報をもっと魅力あるものにして欲しい。

(4) 関係機関との連携

⑨行政や関係機関と連携した地域包括ケアシステムを構築する。

(大原) 一人暮らしで、万が一のことを思えば心穏やかではありません。行政への要望として、玄関先等に非常灯を設置し緊急時には外部に助けを求められるような設備を地域の見守り役として機能するよう制度化して欲しい。個人取り付けもやぶさかではないが、制度化されていなければ無意味です。これからは単身世帯も増えてくるのではないのでしょうか。

(大原) 地域包括支援センターの名前が難しくなじめない。

全体に対しての意見

(勝田) 社協として、人員配置等体制の充実をはかる事が必要じゃないのか？

(美作) 地域によっては対応や周知徹底が難しいので、社協職員の補完としてサポーターを手当てつきで雇い、社協・行政の橋渡しや、地域全体を見れるように地域についてもらいたい。支援の方法・個人情報等、解決に向かうためには職員の数に限界があり、どんなに良い話をして受皿がない。

(英田) 「絵に描いた餅」にならない事を望む。